



紋別の魅力を 見つけ発信したい

「移住者の会」代表 吉川智一郎さん

平成18年8月、市内の3人で発足した「移住者の会」の代表を務める吉川智一郎さん(41)。生まれ育った大阪から紋別市小向に移り住んで13年。「移住したいと思っても生活面での不安を感じる人が多いと思います。移住者の会は、そういう人たちの相談窓口。『移住経験者、ここにいますよ』と声を上げ、何かあったときにお手伝いできれば」と話しています。団塊の世代の退職時代を迎え活躍の機会が増えそうです。

京都の大学を卒業し、外資系食品メーカー営業職などで5年ほど働いた後、将来に疑問を感じて退職。自分探しのため、夫婦で1ヶ月半の北海道旅行に訪れました。紋別では友人を通じての知人宅に泊まり、身の上話をするうちに「来たらどうだ」と勧められたそうです。旅行後もその言葉や、心が洗われた小向名水公園の景色を思い出し、紋別への移住を決断。「旅行中はその気はなかったのですが、

面白いかもしれないと感じてはいました」。今でも小向名水公園には特別な思いがあるそうです。

これまで出会った移住者には「夢やこだわりを持った人が多い」といいます。旅行で利用した民宿には本州出身の個性的なオーナーが多く、移住者の会の他のメンバーも花やバイクに情熱を持っていきます。「交流してみても、自分も知らない紋別の楽しみ方を知りました」。吉川さん自身も、消防団、PTAのほか、エッセイクラブ、混声合唱団、環オホーツク海シンポジウムの実行委員など様々な活動に取り組んでいます。「地域の魅力はもっと見つかるとは。私自身も、ここに来た時の気持ちを思い出して、いろいろなチャレンジしたいと思っています」と。

20代で移住してきた吉川さん夫婦。紋別生まれの2人のお子さんとともに、これからも紋別での生活を楽しんでいくようです。